



小中一貫教育だより

学校教育課・教育センター版
平成30年5月31日 No.6

(小中一貫教育推進だよりから 通算No.77)
十日町市教育委員会学校教育課



小学校運動会（松代中学校区） ※裏表紙で説明

改革疲れにならないように

子育て教育部長 樋口幸宏

4月に異動してまいりました樋口です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、以前行政改革の担当をしていたことがあります。

その当時「行革疲れ」という言葉がありました。当時国は、行政評価、業務棚卸し（事務事業評価）、外部評価、自治体バランスシート、市場化テスト、人事評価など多くの新制度を掲げて行革を推進しました。

しかし、新制度先行の改革は、新たな調査や集計事務も伴うとともに、既存事務との整理・調整がなされたケースは少なく、まさに行革という新たな負荷が現場に増え「行革疲れ」につながったといわれました（勿論例外もあります）。

翻って、現在国、地方とも教職員の多忙化解消・働き方改革が叫ばれています。

ICカードやタイムカード、給食費等の公会計化、部活動指導員、統合型校務支援システムの導入など、新しい取組が並びます。つい以前の行革と重ね合わせてしまいます。

業務の見直しや整理は、官房部署で統一的な制度や手法を示して行うことが一般的とは思いますが。しかし、一人一人の教職員の担任は異なっており、本来、その担任ごと、その教職員ごとに改善の手法は異なるはずで、一番重要なのは、統一した制度よりも業務改善に対する一人一人の意識付けだと思います。

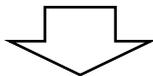
先日見た資料に、「日本の教職員は、授業以外の業務に費やす時間が業務全体の約6割もある。」とありました。一方、英国は約3割とのことでした。

今回の多忙化解消・働き方改革により、先生方が児童生徒に向き合う時間が増え、真に目指すべき教育環境の改善に向かうことを皆さんと目指したいと願っています。

小中一貫教育、市内小中学校共通取組事項を設定します～

< 共通取組事項 >

○中学校区小中一貫教育の取組活動及び各学校の教育活動に
「自己有用感」を高める具体的指導（支援）を組み込む。



十日町市内小中学校の三つの課題の克服

平成 30 年度は「自己有用感」に的を絞った共通取組事項を設定します。「自己有用感」に的を絞った理由を説明します。

(1) 取組評価（児童生徒の評価項目）から

下記の 3 設問共に市内児童生徒の強い肯定は全国に比較し、落ち込んでいます。

（設問 7 は市と国の質問趣旨が異なるため回答に違いが生じましたが、願望「なりたい」ではなく現実的な思い「感じている」では評価が低いのが実態です。）

○設問 5 「自分にはよいところがあると思いますか」				
取組評価での肯定的評価 76.6%（強い肯定 38.9%、肯定 37.7%）				
	小学校 6 年		中学校 3 年	
	取組評価 （強い肯定）	全国学テ （強い肯定）	取組評価 （強い肯定）	全国学テ （強い肯定）
十日町市	28.4%	32.7%	28.0%	21.2%
県		39.0%		29.6%
国		38.6%		28.2%
○設問 7 「人の役に立つことがあると感じていますか」				
全国学テ「人の役に立つ人間になりたいですか」				
取組評価での肯定的評価 79.1%（強い肯定 34.0%、肯定 45.1%）				
	小学校 6 年		中学校 3 年	
	取組評価 （強い肯定）	全国学テ （強い肯定）	取組評価 （強い肯定）	全国学テ （強い肯定）
十日町市	30.3%	63.6%	30.6%	72.7%
県		70.6%		70.6%
国		68.0%		66.1%
○設問 10 「将来の夢や目標がありますか」				
取組評価での肯定的評価 80.1%（強い肯定 50.6%、肯定 29.5%）				
	小学校 6 年		中学校 3 年	
	取組評価 （強い肯定）	全国学テ （強い肯定）	取組評価 （強い肯定）	全国学テ （強い肯定）
十日町市	55.2%	61.9%	42.0%	40.1%
県		67.7%		41.2%
国		70.0%		46.3%

(2) グランドデザイン、教育計画等から

小中一貫教育グランドデザインや各学校のグランドデザイン、あるいは各学校の教育計画には「自己有用感」に関わる記述が多くあります。また、各学校の教育活動においても当然「自己有用感」を大事にしているに違いありません。

しかし、現実には各種活動計画の中に「居場所づくり」「絆づくり」を具体的に位置付け、教師の支援・子どもの共同活動による「自己有用感」育成を位置付けているのは少ない状況です。

また、アクティブ・ラーニングの授業は「自己有用感」「自己肯定感」を高める指導方法であるといえます。効果を上げるには、学習空間としての「場所づくり」「人間関係づくり」が欠かせません。当然、学校生活全般において、一人一人の子どもにとって安心・安全の学校であるために「居場所づくり」「絆づくり」がキーポイントとなります。

(3) 29年度全員研修(8/4)から

平成29年度の全員研修での講師、高橋壮臣先生(静岡県袋井中学校)の講演内容は国立教育政策研究所の指定を受けて、「小中連携&アンケートを活用したPDCAサイクル」→「すべての児童生徒にとって魅力ある学校」→「不登校未然防止」「問題行動未然防止」の実践発表でした。

今までの教育活動を見直し、「自己有用感」をキーワードに「居場所づくり」「絆づくり」を前面に打ち出して教育活動を進めました。その結果、児童生徒だけでなく、教職員・保護者・地域住民にも変容をもたらし、大きく改善しました。

この講演内容は聴衆者(市内教職員)に感動を与え、その後のアンケートでも実践してみたいと感想を述べていた人が多くいました。

コミュニティスクール全面実施の年度だからこそ、絶好の機会と考えます。

(4) 小中一貫教育「本格実施3年間の取組の検証」から

十日町市の三つの課題「学力の向上」「不登校の減少」「特別支援教育の充実」の克服に向け、小中一貫教育を手段として各中学校区で計画的に実践を進めました。成果の出たもの、大きな改善に至っていないもの、環境が整ったもの等、それぞれ進捗状況に違いはあります。

小中一貫教育をさらに充実させ成果に結び付けるために、それぞれの中学校区だけでなく、市全体での共通取組実践を立ち上げる必要があると考えます。

5.15 学力向上推進会議より～「自己有用感」を高める授業づくり～

市内小中学校の研究主任を対象に学力向上推進会議を開催しました。今年度は、市内3校(下条中、吉田小、貝野小)の昨年度実践紹介と「自己有用感」を高めるための授業づくりについてのグループ協議を実施しました。

「自己有用感」については、「平成30年度小中一貫教育 市内小中学校共通取組事項」で示された市共通の取組です(校長会、教頭会、小中一貫教育コーディネーター研修で提示済みです)。今年度の各校の校内研究の取組は既に計画されていることか

ら、新たにこのテーマで取り組むということではありません。授業づくりの要素として、自己有用感を高めるための児童生徒の絆づくり、教職員の居場所づくりの視点を、授業づくりでも意識して取り組んでほしいということです。いわゆる学級づくり、人間関係づくりの要素であり、分かる、楽しい授業づくりのための基盤となるものです。ここがうまくいっていない学級、または、集団では授業が成立しません。自己有用感の視点を授業づくりに取り入れることは、新しいことではありませんし、むしろ当たり前に行っている先生も多いと思われます。

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が新学習指導要領で示されました。この「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が進めば、自己有用感や自己肯定感が高まっていくことが期待できます。つまり、多くの学校で進められている授業改善の方向、校内研究の方向に反することはないはずです。

今後、学力向上推進会議で集約した情報を各校へ提供していくとともに、第2回学力向上推進会議を11月頃に開催し、再度情報交換の場を設け、取組を推進していく予定です。

生徒指導の充実に向けて 今年度3回「いじめ防止対策研修会」を実施します～

いじめや不登校、暴力行為等、様々な生徒指導上の課題は、年々複雑化・多様化の傾向にあります。特に「いじめ」の問題は、当市でも積極的に対応していく必要があります。

そこで、昨年度まで年1回の開催だった「いじめ防止対策研修会」を、今年度は3回実施することとしました。しかも、講師は、数多くの書籍を出され、全国各地の講演等で引っ張りだこの上越教育大学教職大学院教授・赤坂真二様をお迎えできることになりました。

つい先日、5月14日（月）、千手コミュニティーセンターで第1回の研修会を開催し、「いじめに強い学校・地域づくり」と題し、いじめ問題の本質や学校として何をすべきかについて、ご講演いただきました。研修会参加者のほとんどが、全国で人気を博す講師先生の熱い語り引き込まれ、時間の経過を忘れて聞き入ってしまう程で、いじめ対応に向け大きな力を得ることができた旨の感想が多く寄せられました。

本研修会につきましては、9月6日（木）に第2回、11月13日（火）に第3回を予定しています。

市教育の重点 特別支援教育の充実をめざして「特別支援教育研修講座」～

今年度、市教育センターでは、特別支援教育における教職員の指導力向上や校内体制づくりの強化、保護者等への啓発等を目的に、特別支援に関わる研修講座を、年間8回のシリーズで実施していく予定です。

5月1日（火）に第1回研修講座を開催しました。十日町市立ふれあいの丘支援学

校・長谷川紘校長先生より『特別支援教育の基本』『コーディネーターの役割と校内体制づくり』と題して、なかまの家施設長・渡邊孝雄様からは『福祉との連携、卒業後の進路』と題して、管理職である校長や教頭、特別支援教育コーディネーターを対象に講演をしていただきました。

長谷川様からは、通知に基づいた特別支援教育の理念の根拠・ガイドライン、学校現場における体制づくりなどについて、渡邊様からは、障害に応じた就労支援のあり方や福祉サービスの実態について、分かりやすくご教示いただきました。

第2回の特別支援教育研修講座は、特別支援学級担任を中心とした研修を開催します。講師先生は、十日町市立ふれあいの丘支援学校・長谷川紘校長先生です。



市教育の重点 不登校の減少をめざして「不登校対策研修会」～

市では昨年度、中学校の不登校数が減少し、一歩改善に向けて前進できたところで。しかしながら、まだまだ不登校の現状は予断を許さない状況にあります。

市教育センターでは、不登校対策の充実に向け、今年度も年間3回「不登校対策研修会」も開催いたします。県不登校対策連絡協議会の座長を務められている新潟大学大学院・神村栄一教授を講師に、6月13日（水）に第1回目を開催する予定です。

小学校ほうかご寺子屋塾始めました！

7年目を迎えた寺子屋塾です。5月21日（月）に吉田小、貝野小、まつのやま学園（小学部）の開塾式があり、寺子屋事業がスタートしました。今年度も市内18校全てで開塾します。参加総児童数は406名、参加人数の割合は約32%で昨年度とほぼ同等です。

テキスト等を基にした自主学習の場ではありますが、個々の児童の実態によっては、学校と連携、情報交換が必要だと考えています。開始当初の情報交換のみならず、必要に応じ連携を取らせていただきますので、よろしくお願ひします。

キッズ英語遊び塾始めました！

小学校低学年の児童に英語にふれる機会を提供し、英語への親しみ、外国人や外国のことに対する興味関心を高めることをねらいに「キッズ英語遊び塾」を開塾し、3年目に入ります。今年度は橘小を新たに加え、吉田小、鑑島小、馬場小、貝野小の5校を対象に実施します。講師は、市内在住の土井ひとみ先生です。5月18日（月）の橘小を皮切りに各校がスタートしました。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～6・7月～

日程	内容【会場】	備考
6月1日(金)	ハブスクール事業【十高・授業公開】	英語授業公開
6月2日(土)	土曜イングリッシュ寺子屋塾・開塾式 【情報館・千手コミセン】	
6月8日(金)	特別支援教育研修講座【川西庁舎】	講師：市立ふれあいの丘支援学校 長谷川紘校長 対象：学級担任・副任
6月11日(月)	市教委計画訪問【まつのやま学園(小)】	外国語活動授業公開
6月13日(水)	不登校対策研修会【川西庁舎】	講師：新潟大学大学院 神村教授
	中越・学校訪問【松代中】	数学授業公開
6月14日(木)	新採用若手事務職員研修【川西庁舎】	3年目までの事務職員が対象
6月15日(金)	特別支援教育保護者研修会(ファミリー学習会)【川西庁舎】	講師：白倉相談員、鈴木臨床心理士 対象：保護者
6月18日(月)	プロに学ぶ～授業力向上研修①～【十小】	4年算数科示範授業・講演会
6月19日(火)	市教委計画訪問【飛一小】	算数授業公開
	市教委計画訪問【吉田小】	国語授業公開
6月20日(水)	ふるさと信濃川教室・引率教員事前レクチャー	
6月21日(木)	中越・学校訪問【田沢小】	道徳授業公開
6月22日(金)	ふるさと信濃川教室・スタート	
6月25日(月)	ハブスクール事業【十小・授業公開】	外国語活動公開
6月26日(火)	学力向上専門監事業【下条中】	英語授業公開
7月10日(火)	特別支援教育研修講座【千手コミセン】	講師：新潟大学大学院 長澤教授 対象：教職員、保育士ほか
7月12日(木)	市教委計画訪問【馬場小】	算数授業公開
	学力向上専門監事業・ハブスクール事業【十中】	英語授業公開
7月18日(水)	ふるさと信濃川教室・最終日(予定)	
7月25日(水)	教育支援員研修会【川西庁舎】	講師：白倉相談員 対象：教育支援員
7月30日(月)	図書委員会サミット【情報館】	
	英語ボランティアガイド養成講座開講式【十小】	

【表紙の説明】

5月27日に松代小学校で行われた、大運動会。松代中学校の中学生が競技に参加したり、補助役員を務めたりして、運動会を盛り上げていました。